



麻布幼稚園だより 7月号

平成29年6月30日 港区立麻布幼稚園 園長 大島 美知代

「楽しい遊びと約束の関連性」

園長 大島 美知代

とうとう1学期最後の月となりました。先月は担任の交代があり、様々な対応で乗り切りましたが、園児、保護者の皆様には大変なご迷惑をおかけいたしました。申し訳ありません。園児たちは新担任、新体制に慣れてきたのか、元気に遊び、自分を出し、製作活動を楽しみ、園庭の遊具や砂場で思い思いに好きな遊びをして元気な姿を見せています。

4歳児、5歳児はお店屋さんごっこ、製作遊びに興じたり、自然と関わり、ダンゴ虫を探したり、アゲハチョウの成長に関心を寄せたりしています。

先月下旬から水遊び、プール遊びの指導が始まりました。水遊びは楽しい遊びですが、危険もいっぱいです。「プール開き」の式では、担当の教員が約束を絵に描き、「この行動はいいのか、悪いのか、○か×か？」とクイズ形式にして話しました。

- ①プールの周りを走ってもいいのでしょうか？…○か×か？
- ②大きなプールの外側の淵（黄色いところ）に腰かけたり、そこをまたいで出たり、入ったりしてもいいのでしょうか？…○か×か？
- ③プールの中で走ったり、ふざけたりしてもいいのでしょうか？…○か×か？
- ④水を友達にかけて遊んでいいのでしょうか？…○か×か？

（顔に水がかかるのは嫌な人、いますか？と聞いたら手があがりました）

- ⑤先生がピーと笛を吹いて合図をしたら、まだ遊んでいいですか？…○か×か？

このような5つのクイズをして、約束を知らせました。（皆さんはこのクイズの答えはもうお分かりでしょう。）

子どもたちは楽しいとつい夢中になってしまい、約束を忘れてしまうことが多いです。子どもながらにこのくらいなら大丈夫と予想したり、「後で」または「今度」直せばいいと思ったりすることも出てきます。子どもが楽しいと、夢中になっている姿は大人にとっては嬉しい姿ですが、大人は安全、安心をいつも考えていかななくてはなりません。大好きな水遊び、プール遊びで思い切り楽しんでほしいと思いつつ、子どもたちの安全にいつも気を配って指導する大人でなくてはならないと思います。

先日、六本木一丁目駅で自宅に帰ろうと私はエスカレーターを降り、改札に向かっていました。その時に小学生くらいの娘さんを連れたお父さん（だと見えた男性の人）が逆コースでエスカレーターを登ってきました。2人の娘さんはお父さんの後ろに歩いていたのですが、急にお父さんの前に出て、エスカレーターに入りました。ここまでは通常あることですね。ところがその娘さんはエスカレーターの動いている階段部分で止まるのではなく、エスカレーター階段の両脇にあるステンレスの部分（エスカレーター階段の外側の動かない部分）に乗り、ベルトにつかまって、そこを歩き始めました。私が驚いたのはそのお父さんがにこやかに笑っており、2人には注意するどころか、何も言わずに登り終えたことです。そして、その親子は何事もなかったように去っていきました。皆さんはどう思いますか。

元気で楽しいお休みをお過ごしください。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。